

柏原宿歴史館企画展 一戦国武将と山東展一

[山東町]

“近江を制する者は天下を制する”といわれた戦国の世において、信長・秀吉・家康をはじめ激動の時代を生き抜いた戦国武将と、近江の東の玄関口という交通の要衝に位置する山東町との関わりにスポットを当て、企画展「戦国武将と山東展」を開催します。

期 間 平成12年10月31日(火) から
11月26日(日) まで

場 所 山東町立柏原宿歴史館 (0749-57-8020)

おもな展示品 徳川家康安堵状、豊臣秀吉朱印状
石田三成成善堤院村掟など

関連行事 講演会(柏原宿歴史館)
11月18日(土) 午前10時から
演 題「石田三成と湖北」
講 師 長浜城歴史博物館
学芸担当主幹 太田浩司氏
皆様のご来館をお待ちしております。

企画展の会期中に「紅葉の中山道柏原宿ウォーク2000」が柏原周辺で開催されます。

日 時 平成12年11月18日(土)・19日(日)
午前8時30分～午後3時

受 付 JR東海道本線柏原駅前

内 容 ・柏原周辺の史跡等散策
(4コース、スタンプラリー)
・成善堤院(般若殿・寺宝特別公開)
・徳源院、もぐさ屋(庭園公開)
・醒井宿資料館オープンなど

ウォーク
問い合わせ 山東町観光協会 (0749-55-8101)



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

第13号

2000年11月11日

滋賀県坂田郡社会教育研究会
文化財部会

米原町醒井宿資料館がオープン

[米原町]

平成12年11月12日(日)に米原町醒井に中山道醒井宿についてスポットを当てた米原町醒井宿資料館がオープンしました。この資料館は、国の登録文化財である旧醒井郵便局局舎と米原町指定文化財である醒井宿問屋場の二軒の建物から構成されています。米原町教育委員会ではこの二軒の建物を広く一般に公開するため、平成11年度より本格的な解体修理工事を実施してまいりました。

旧醒井郵便局局舎は、大正四年に建てられたものを昭和九年に改装した2階建ての擬洋風木造建築です。当初の設計には、全国に洋風建築の傑作を数多く残したウィリアム・メレル・ヴォーリズが関わっています。

1階部分については旧醒井郵便局の業務風景やヴォーリズの業績、醒井の見所等についてのパネル展示をしています。また、イスやテーブルを完備して、醒井を訪れる人達の休憩施設としての役割も持たせています。2階部分については、醒井宿で代々庄屋や問屋を務めていた江龍家が残した膨大な宿場関係資料『江龍文書』の一部を展示しています。

醒井宿問屋場の方は、修理工事を通じて、17世紀後半の建物であることが判明しました。全国的にも現存する建物が非常に少ない問屋の建物を、なるべく当時の姿に近い形で再生しています。ここでは宿場の中で果たした問屋の役割を理解していただき、一般民家との建物構造の違いや歴史的建造物の修理の仕方を実感していただけるように工夫をこらしました。

米原町としては初めての資料館と言ってもよい米原町醒井宿資料館。建物も決して大きくなく、展示スペースも充分とは言えませんが、一人でも多くの方々に来館していただき、活気ある資料館にしていきたいと考えています。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。(土井一行)

開館時間/午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日/月曜日・祝日の翌日・年末年始
入館料/大人 200円(100円)
小人 100円(50円)
()内は20名様以上の団体の場合
お問合せ/米原町教育委員会 社会教育課
(0749)52-6632



▲旧醒井郵便局局舎



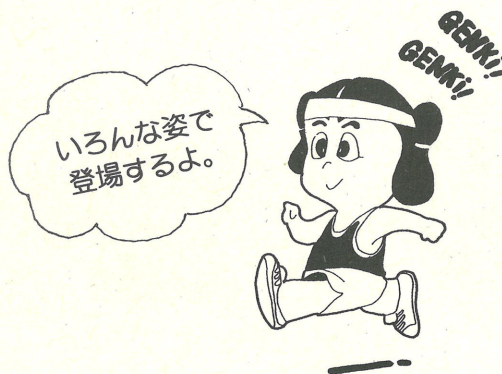
▲醒井宿問屋場

情報BOX

◆伊吹山文化資料館では下記の企画展を開催します。
第23回企画展
『近江発掘ベスト10 パネル展』
11月22日～11月30日まで(月・火曜休館)
◎問い合わせ先
伊吹山文化資料館 ☎・FAX(0749)58-0252

★坂田郡のマスコット紹介②(伊吹町編)

伊吹町のマスコットは「タケルくん」。いうまでもなく、あの日本武尊をキャラクター化しました。でも、タケルが征伐してきた伊吹の荒ぶる神が、町内の神社に祀られている伊吹大神だと思いと、少し複雑です。



◆◆ 編集後記 ◆◆

「佐加太」第13号です■5月と11月に発行するという決まり事はほぼついでました■最近では4町どこかのイベントや施設のオープンに合わせる傾向になっています■坂田郡は醒井宿資料館で全ての町に資料館施設が揃いました■それぞれ特徴があり、担当者の連携もバッチリです■また、縄文から中世城館、宿場町、果ては石切場まで様々な遺跡を取りそろえています■これから各種研修を企画される時期ですが、東からも西からも足を運びやすい北近江坂田郡に是非お越し下さい■さて、私事ですが生まれ育った地域の伝統芸能「伊吹山奉納太鼓踊」の三役を仰せつかりました■6月19日から連夜小学3年生以上の子ども達にバチさばきを教え、このほど無事に氏神への奉納を済ませました■子ども達との一体感、その成長ぶり。つい先日まで余韻に浸っていました…。
“タンコン、チキチ、チン、チキチ…”(シャンギリッ子)

坂田郡文化財ニュース
佐加太 第13号
発行 平成12年11月11日
編集 坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局 〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照37
伊吹町教育委員会生涯学習課
TEL. 0749(58)1121
印刷 立木印刷

【県指定】伊吹山地草原植物及びその自生地

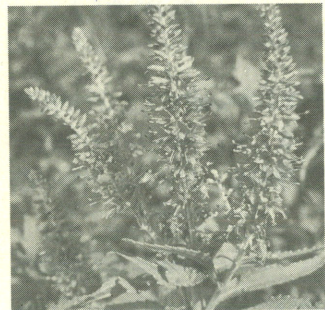
所在地：伊吹町上野 伊吹山標高 1,200m～1,350m

滋賀県の最高峰伊吹山は草本植物の宝庫です。標高1,377m、冬は日本海から寒冷な季節風が強く吹き付け、風量は蔵王について2番目、観測地点での世界最高積雪記録11.82m(大正2年)をもつほど積雪量が多く、晴天日が年19日しかないという非常に気象条件の厳しい山です。古生代末期(約2億年前)から中生代はじめの大造山運動により誕生した古い山で、全山が石灰岩層であることから、水はけが良く樹木の成育が抑えられ、山

頂一帯は近畿地方では類のない美しいお花畑が発達し、春から秋にかけて色とりどりの花が咲きます。

全山でシダ植物以上の高等植物が約1,250種自生しています。なかでも特殊な地質・気象条件で生じた特産種(固有種)や、高山または亜高山性植物と通称される冷温帯の植物、分布上の西南限の種、日本海側に分布の本拠をもつ多雪地帯の植物、石灰岩地を好む植物など多彩な植物相がみられます。

また、昔から薬草の宝庫として知られ、約300種類が確認されています。延長5年(927)に完成した『延喜式』巻37には、薬草の種類と数量が記載され、一番多いのが近江73種、次に美濃62種で両国をまたぐ伊吹山産の薬草が献上されたものと考えられます。日本の植物分類学の父牧野富太郎博士も何度か調査に訪れています。(高橋順之)



▲特産種ルリトラノオ



▲夏のお花畑

民俗資料館リニューアルオープン

[山東町]

ほ場整備や宅地造成などの嵐が通り過ぎて久しく、発掘現場に出ることが少なくなってきた昨今。その分、欲を出して風呂敷を広げ過ぎた結果、自分の首を締めてしまっているように思う今日この頃…。

それはさておき、近年、総合学習とやらのウェーブが押し寄せ、学校とのお付き合いが増えてきました。町内で出土した様々な遺物にハンズオンしてもらいながら話をしたり、民具を使っているいろいろな体験教室などを行っています。

これら体験活動の拠点の一つが山東町民俗資料館。しかしながら、従来の展示などが硬直化していたので、史談会やサポーターの人たちと一緒に展示を一新。

【展示室1】では、昭和30年代まで使われていた田起こしから収穫までの農具を展示しました。体験できるスペースも設けました。

【展示室2】では、オクドサンや五右衛門風呂など昭和初期の台所の一隅を再現してみました。

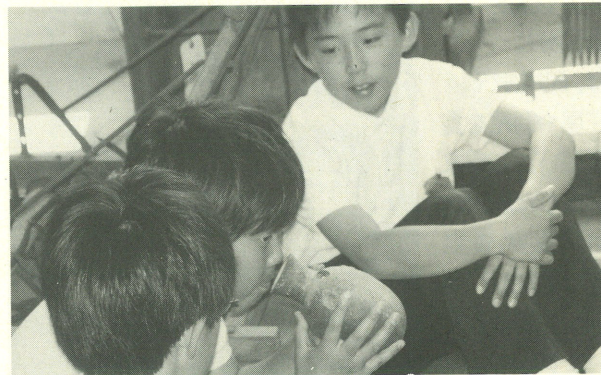
【展示室3】では、近年発掘された先人の貴重な遺物を

展示しています。

また、【展示室1】の中にテーマを設けたコーナーとして、今回「明かり」をテーマに、火起こし道具やランプなどを展示しています。

先人たちが工夫改良し、磨き上げてきた品々に触れてみませんか。皆様のご来館をお待ちしております。

(桂田峰男)



▲土器ってどんな臭い?

井の田遺跡出土のS字口縁甕

[伊吹町]

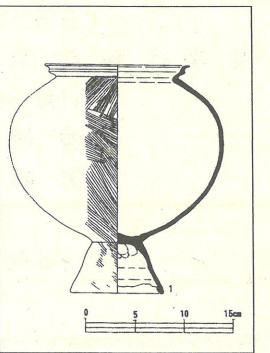
伊吹山南麓の大清水にある「泉神社湧水」は、日本名水百選に選ばれた清冽な水で、年中水温11度、1日の湧出量4,500トンを誇ります。井の田遺跡は集落の北側にあり、縄文時代中期末から後期にかけての土器、石棒が出土しています。周辺は弥高川と政所川が作る扇状地扇頂部で、伊吹山から続く低丘陵の裾にあたります。大清水という名のとおり、いつの時代でも豊かな水に育まれた生活が営まれました。

今回紹介する土器は、昭和12年3月29日水田畦端の石垣築堤中に発見されたもので、本町では唯一の古墳時代前期、いわゆる庄内期の土器で、東海系の「S字口縁甕Cタイプ」に分類されます。ほぼ完形で出土している資料は県内ではほとんどありません。土器の高さは約23.5cm、胴部の最大径は中位よりやや上にあります。口縁部の屈曲は外方に開きながら斜めに立ち上がり、体部外面には斜め方向のハケ調整が施されています。脚台内面には粘土の折り返しがあります。また、外面には使用したときのスガが付着しています。

東海のS字口縁甕が白っぽい色調を呈するのに対し、本資料は淡橙褐色で、胎土も違うために東海から運ばれたものでなく、坂田郡で作られた土器と考えられます。また、東海地方ではS字口縁甕として完成している時期なのに、本資料は体部が幾分傾斜しており、また脚台もやや大きめなことから、この地に運ばれてきた東海のCタイプを手本にして、徹底的にまねて作ったものと思われる。

S字口縁甕は、濃尾平野を中心とする伊勢湾岸地域から発生し、日本列島の広範囲に拡散しました。濃尾平野の首長から、近隣の首長に配られたようです。近江では坂田郡で集中的に出土しており、ここを經由して越前・加賀にいたります。

1点の土器の出土から、大清水に3世紀末の伊吹山麓の拠点集落が眠っている可能性がでてきました。(高橋順之)



法勝寺遺跡の軒平瓦

[近江町]

近江町高溝に所在する法勝寺遺跡は、縄文時代早期から平安時代後期まで続く複合遺跡。詳しくみれば、10期の時期から構成されています。

なかでも寺院に関連した遺構は、創建年代を示す白鳳期のものと、修復年代を示す平安時代中期のものに大別されます。修復期の軒瓦については、これまでに『佐加太』第7号でもご紹介したところですが、今回は創建期の瓦についてふれてみたいと思います。

これまでに寺院の伽藍中心部分の発掘調査がなされていないため、資料の大半は、不時発見のもの、回廊推定地周辺のものに限られています。

資料には、軒平瓦・軒丸瓦・鷗尾などがあります。このうち軒丸瓦は種類が多く、これまでのところ中心となるものが特定されていませんが、一方の軒平瓦は、重弧文の瓦頭面を持つもののみで構成されています。軒平瓦には有顎のものと、無顎のもの

があり、後者が主流を占めます。

軒平瓦は、桶巻枝法の痕跡を成形にとどめていますが、凹面に同心円文の巡るものや、凸面にへら描きの波状文を残すものなどがあり、須恵器生産に関わった工人が製作したものも含まれているようです。(宮崎幹也)

